

安全データシート

会社情報

会 社 名： 株式会社 T-INNOVATION
住 所： 兵庫県神戸市長田区川西通3-56-2
電 話 番 号： 078-742-6004 FAX 番号： 078-742-6005
緊急連絡先： 078-742-6004
作成・改定： 2024 年 04 月 25 日

製品名（化学名、商品名等） MOST（モスト） 万能ペンキ除去剤

危険有害性の要約

GHS 分類

健康有害性

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分 2

発がん性 区分 2

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

気道刺激性 区分 3

麻酔作用 区分 3

環境有害性

水生環境有害性（急性） 区分 3

注：上記で記載がない危険有害性は分類対象外か分類できない。

GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
気道への刺激のおそれ／眠気またはめまいのおそれ
重篤な眼の損傷
発がんのおそれの疑い
水生生物に毒性

注意書き

[安全対策]

使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
容器を密閉しておくこと
ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
屋外で取り扱うかまたは取り扱い作業所には局所排気装置を設けること。
取り扱い中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防毒マスクまたは送気マスク、保護手袋、保護眼鏡／保護面を着用すること。

この製品を取り扱うときは、飲食喫煙をしないこと。
 取り扱い後はよく手を洗うこと。
 取り扱いは、飛散、又は流出しないように留意して行うこと。万
 一飛散、流出した場合には、ウエス、紙タオル等で拭いたり回収
 し環境への放出を避けること。

【応急処置】

飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休
 息させること。医師に連絡すること。
 皮膚（または髪）にかかった場合、直ちに汚染された衣類をすべ
 て脱ぐこと／取り除き、皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタク
 トレンズを着用していて容易にはずせる場合ははずすこと。その
 後も洗浄を続け、直ちに医師に連絡すること。
 皮膚刺激がある場合、医師の診断／手当てを受けること。
 火災の場合、消火に水噴霧、泡、ドライ・ケミカルあるいは、炭
 酸ガスを用いること。
 漏出物を回収すること。

【保管】

換気のよい場所で保管すること。
 涼しいところに置くこと。
 施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理
 業者に業務委託すること。

物質の特定	単一製品・混合品の区別	:	混合品		
	成分及び含有量	:	混合品につき適用外		
	化学名	:	混合品につき適用外		
	官報公示整理番号（化審法）	:	登録あり		
		化審法	安衛法	CAS NO.	含有量
	石油系炭化水素	9-1702	12-140	64742-81-0	35%未満
	界面活性剤	登録済		登録済	5%未満
	水	対象外		7732-18-5	60%以上
	P R T R 法		:	非該当	

危険有害性の分類

分類の名称 : 分類の基準に該当せず

危険有害性コメント

危険性 : 温度上昇により引火するが、水分により燃焼持続性はない。
 消防法非危険物

- 有害性 : 飲用不可・有害性
- 1) 液体に長時間あるいは繰り返し接触すると皮膚刺激や皮膚炎を起すことがある。
 - 2) 高濃度の蒸気あるいはミストは、目を刺激し、頭痛の症状が現れることがある。
 - 3) 飲み込むと有害で、生命に危険を及ぼすおそれもある。
- 環境影響 : 知見なし。

応急処置

目に入った場合

直ちに大量の清浄な流水で 15 分以上洗浄したあと、眼科医の診断を受ける。
洗眼の際、瞼を指でよく開いて、眼球・瞼のすみずみまでよく洗浄する。

皮膚に付着した場合

直ちに大量の水と石鹼で十分に洗い落とす。溶剤、シンナーなどは使用してはならない。汚染された衣料、靴などは速やかに脱ぎすてる。
外観に変化が見られ、痛みがある場合には、医師の診断を受ける。

吸入した場合

多量にガスなどを吸い込んだ場合は、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静にして医療処置の手配をする。
呼吸が不規則もしくは停止している場合は、衣類をゆるめ呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。

飲み込んだ場合

誤って飲み込んだ場合は、無理に吐かせず直ちに医師の診察を受ける。
嘔吐物は、飲み込ませないこと。
口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗浄する。

予想される急性症状及び遅発性症状
なし

火災時の処置

消化方法

可燃性のものを周囲から速やかに取り除く。
初期の火災には、泡沫、粉末、炭酸ガスを用いる。
消火作業の際には、風上から行い、必ず適切な保護具（耐熱着衣など）を着用する。
大規模火災の際には、泡消化剤を用いて空気を完全に遮断する。
注水は、火災を拡大し危険な場合がある。

消化剤

水 [], 炭酸ガス [○]、泡 [○]、粉末 [○]、乾燥砂 [],
その他 []

漏出時の処置

屋内の場合は、作業が終わるまで十分に換気を行う。
 作業の際は適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグルなど）を着用する。
 少量の場合は、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて回収する。
 多量の場合は、盛り土で囲って流出を防止した上で回収作業を行う。
 流出した製品が河川などに排出され、環境への影響を起こさないようにする。

取り扱い及び保管上の注意

取り扱い上の注意

引火性液体が使用されているので、火気に注意して取り扱うこと。
 皮膚に触れる場合や、目に入る可能性のある場合には保護具を着用すること。
 換気のよい場所で取り扱う。
 容器はその都度密栓する。
 口で吸い上げるサイホンはしないこと。

保管上の注意

引火性液体が使用されているので、火気に注意して取り扱うこと。
 冷暗所で換気のよい場所に保管する。
 強酸化剤との接触及び同一場所での保管を避ける。

暴露防止措置

管理濃度	: 設定されていない。	
許容濃度	: 日本産業衛生学会	: 設定されていない。
	ACGIH 勧告値	: 設定されていない。
	OSHA(PEL) 勧告値	: 設定されていない。
設備対策	: 取扱いは全体換気装置を設置した場所で行う。	
保護具	: 呼吸保護具	: 多量のミスト・ガスの発生する場所での作業には、防毒マスクを着用する。
	保護眼鏡	: 目にかからないように注意し、必要に応じて保護眼鏡を着用する。
	保護手袋	: 化学製品又は石油製品用保護手袋を着用する。
	保護衣	: 皮膚に付着しないよう注意をし、不浸透性の保護衣を着用する。

物理／化学特性	外観	: 乳白色液体	臭気	: 溶剤臭
	沸点	: データなし	蒸気圧	: データなし
	密度	: 0.915 (20℃)	pH値 (水溶性のものに対して)	: 約 7
	溶解性	: 水に溶解する		

危険性情報	引火点	: 47℃	発火点	: なし
	爆発限界	: (下限) データなし (上限) データなし		
	反応性	: 酸化性、自己反応性	: なし	爆発性: なし
	安定性	: 0℃以下及び 40℃以上の貯蔵条件により分離傾向を示すことがある。		

有害性情報（人についての症例、疫学的情報を含む）

皮膚腐蝕性	: なし
刺激性（皮膚、眼）	: 長時間又は繰り返し接触する場合は、刺激性の恐れあり。 眼に入ると眼を刺激することがある。
急性毒性（50%致死量を含む）	: 製品としてのデータなし 石油系炭化水素分について 経口 ラット LD50 : 5 g/Kg 以上（推定値）
亜急性毒性	: 過度に蒸気又はミストを吸入すると、粘膜を刺激し、不快感、頭痛、眩暈などの中毒症状や、中枢神経に影響を起こすことがある。
慢性毒性	: データなし
がん原生	: データなし
変異原性（微生物、染色体異常）	: データなし
生殖毒性	: データなし
催奇形性	: データなし
その他（水と反応して有害なガスを発生する等を含む）	: データなし

環境影響情報

分解性	: データなし
蓄積性	: データなし
魚毒性	: データなし

廃棄上の注意

- ★廃液、容器などの廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理をすること。
- ★容器、機械装置などを洗浄した排水は、地面や排水口に流さないこと。
- ★廃水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する放棄に従って処理をするか、委託処理をする。
- ★容器の切断、溶接などの加工をしないこと。

輸送上の注意

- ★取扱い及び保管上の注意の項の一般的注意に従う。

適用法令

消防法	：	該当せず（非危険物・水溶性液体）
労働安全衛生法	：	該当
毒物劇物取締法	：	該当せず
航空法	：	該当せず
海洋汚染防止法	：	油分排出規制
水質汚濁防止法	：	油分排出規制
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	：	産業廃棄物規制

その他（引用文献など）

- 1) 製品安全データシートの作成指針
- 2) セーフティーデータシート（石油化学工業会）
- 3) 原料メーカー製品安全データシート

製品安全データシートは危険性、有害性を有する化学製品について安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるもので、安全の保証書ではありません。

記載内容は作成時点で入手できた資料、データ等に基づいておりますが、法令の改正及び新しい知見に基づいて改正されることがあります。

危険性・有害性の評価及び注意事項は通常の取り扱いを対称にしたもので、特殊な取り扱いの場合には使用者の責任において、用途・用法に適した安全対策を実施してください。